

ACS日本支部ニュース

NEWS LETTER FROM THE JAPAN CHAPTER
OF AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS

2010. Mar. Vol. 1

主な内容

- ACSニュースレターの発刊にあたって (谷川允彦)P1
- Honorary Fellowを受賞して (北島政樹)P2
- 私のACSに対する思い (山川達郎)P3
- 新入会員を代表して (坂井義治)P5



ACSニュースレターの発刊にあたって



ACS 日本支部長
大阪医科大学 一般・消化器外科 教授

谷川 允彦

*Nobuhiko Tanigawa, MD, FACS
President of the Japan Chapter
Governor, American College of Surgeons*

American College of Surgeons 日本支部はACSと日本外科学会会員との交流を目的に1988年にbylawに基づいた最初の総会が開催され、以降、日本外科学会に合わせて年次総会が開催されてきました。ACS本部記録によれば、1990年10月に出月康夫先生が日本支部会長に就任されています。1991年には松本昭彦先生が、1992年には戸部隆吉先生がACS日本支部会長となられています。その後、毎年互選で副会長が選ばれ、翌年に副会長が会長に就任することによって、当該年度の業務が執り行われてきました。しかしながら、ACSとの連携を更に推進するためには日本支部長を一定期間固定することが必要であると2007年4月開催の日本支

部総会で提案され、小生が光栄にも指名・承認されました。事務局長の高折恭一先生(京都大学医学部肝胆膵・移植外科)との二人三脚で、その後、ACS本部のbylawに沿った“日本支部規程”の改訂、支部総会での事務局報告・ACS Executive members の招待講演の設定、有意な若手外科医への Fellow 申請の推奨などを行ってきました。

これらは、これまでにACS日本代表Governorを務めてこられた出月康夫名誉教授(東京大学)や山川達郎名誉教授(帝京大学)の具体的かつ、親切なご指導をその都度いただくことができたことが大きな助けとなりました。ここにあらためて御礼を申し上げます。2009年にはめでたく31

名の新フェローが誕生し、日本支部に所属する active fellows として223名が登録されています。International chapter としては Mexico に次いで多い会員を擁する支部となりました。このたびの事務局が推奨したFellow 申請はわが国の外科医がACS年次総会に積極的に参加・発表して交流を盛んにすることを目的にしています。年次総会ではInternational session も設けるなど、ACS本部も各国の参加を希望していますので、新フェロー含めた先生方の発表が増えることを期待しています。

ご案内の通り、2009年11月のACS年次総会において北島政樹先生(国際医療福祉大学学長)がACS honorary member に推挙されましたこと

は、日本の外科医にとって大変喜ばしくまた、誇らしいことです。この快挙は本邦では秋山洋先生、平野鉄也先生、出月康夫先生、井口潔先生、葛西森夫先生、榎哲夫先生、佐野圭司先生、佐藤壽雄先生、戸部隆吉先生など卓越した先人に続くものですが、受賞された当日の2009年11月11日にはHilton Chicagoにおける日本支部レセプションに北島先生をお迎えして、各国の代表的外科医からのビデオレターも含めてお祝いをする事ができました。この度のニュースレター第一号発刊にあたってこのような素晴らしいニュースを皆様と共有できることを大変な光栄と喜んでいる次第です。

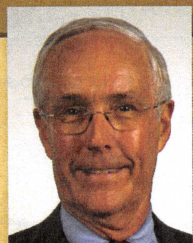
Greetings from the American College of Surgeons

Thomas R. Russell, MD, FACS

Congratulations on the Japan Chapter's newsletter, which we hope will foster communications among the members. The Japan Chapter has much to be proud of — especially the Traveling Fellowship that the College shares with the Japan Chapter and the Japan Surgical Society. Sharing education and expertise among our members is an activity that makes our surgical profession unique and helps us to provide the best patient care possible.

Truly, I have enjoyed visiting with the College's members in Japan. I will always cherish the time we have spent together, and I value our friendships and camaraderie. Thank you very, very much for the support and assistance that the Japan Chapter members have provided to me during my tenure with the American College of Surgeons.

Congratulations again for developing the Chapter's newsletter. With very best wishes for your continued success,





国際医療福祉大学 学長

北島 政樹*Masaki Kitajima, MD, FACS(hon)***Honorary Fellowを受賞して**

去る10月11日、米国のシカゴで開催された米国外科学会(American College of Surgeons: ACS)年次大会初日の授与式において、ACS名誉会員(FACS(hon.))の称号を授与されました。

ACSは1913年に創設された世界最大の外科系学会で、正会員(Fellow)の総数は76,000名を超えます。米国外の正会員約4,000名のうち、日本は168名と最も数多くの正会員を排出している国です。名誉会員の称号は外科領域で特に功績のあったものに付与されること、1913年、英国王立外科学会会長のSir Rickman Godleeが受賞して以来、今年の5名の受賞者を含め418名の正会員に授与されています。本邦ではわずか9名にのみ与えられていますが、私立大学では私が最初とのこと、大変名誉に感じています。

私は1988年杏林大学第1外科に

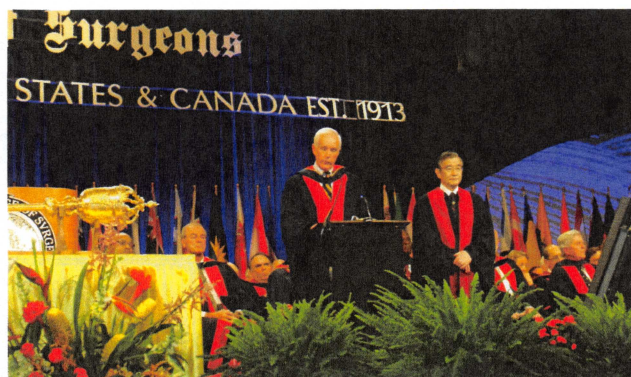
所属中FACSの推薦を受け、1991年コンボケーションに参加しました。オープニングセレモニーでの緊張感を今でも鮮明に記憶しております。その後、2000年3月から2001年10月までACS日本支部(ACS Japan Chapter)会長を務めさせていただき、ACSに直接貢献してまいりました。日本外科学会の会期中には、ACSのExecutive Memberを招待し、講演や意見交換をし、両学会の緊密な関係を築いてまいりました。1997年に英国イングランド王立外科学会(Royal College of Surgeons of England)の名誉会員に推薦を受け称号をいただいておりますが、今回のACSの名誉会員の受賞と共に大変名誉であると同時に、伝統と歴史のある両学会の名誉会員として、今後、日本外科学会の存在感を世界に示す良い機会であり、その使命感を感じております。

授与式当日の夜、ACS日本支部

会長の谷川允彦教授(大阪医科大学)および事務局長の高折恭一講師(京都大学)のご配慮によりシカゴ・ヒルトンホテルで祝賀会を開催していただき、心より感謝いたします。その時、旧友であるACS副理事長のCarlos A. Pellegrini教授(ワシントン大学)ご夫妻、およびExecutive DirectorのThomas Russell教授が祝辞に駆けつけて下さり、50人を超える内外の関係者が集い大変な盛会でしたが、今でも印象深く残っております。また、日

本外科学会会頭の中尾昭公教授(名古屋大学)をはじめ、北川雄光教授(慶應義塾大学)、Han-Kwang Yang教授(ソウル大学)など、多くの重鎮や友人、弟子からのメッセージが収められたビデオレターが披露され最高の祝賀会と思っております。

今後はACSあるいはRCS、またISS/SICなど日本外科学会が交流を深くし、存在感を世界に広めるべく、微力ながら努力させていただきます。



■授与式においてExecutive DirectorのDr. Thomas R. Russellより紹介を受ける北島政樹先生

ETHICON ENDO-SURGERY
a Johnson & Johnson company

EnSeal®
Tissue-sealing Device



販売名:サージレックス エンシールシステム 承認番号:21800BZY10087000 クラス:III 高度管理医療機器
製造販売元: ジョーンソン・エンド・ジョーンソン 株式会社 メディカル カンパニー エチコン エンドサージェリー・ジャパン 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 TEL(03)4411-7905

*商標 ©J&JKK 2010



帝京大学 医学部 名誉教授

山川 達郎

Tatsuo Yamakawa, MD, FACS
Past Governor, Japan Chapter of ACS

American College of Surgeons (ACS), Japan ChapterのNews Letterが発刊されることになった由、まづは心よりお祝い申し上げます。事務局を担当する高折恭一先生からこの機会に、Past Governorとして“ACS日本支部に期待すること”と題して何か書くようにとの命をいただき、そして熟考して得た答えは、“私にとってのACSって何だったのか”ということであります。今回は、本題から少し外れる内容になってしまいますが、日本支部会設立当時のことや、Governor時代の経験を思い浮かべながら、ACSに対する私の思いを述べさせていただきます、その責を果たさせていただきますと思います。

私は、1984年10月25日、今も変わらぬSan FranciscoのMoscorne Convention Centerで開催された70th Annual Clinical Congress of ACSでのConvocationでFellowに

認証されました。この年に認証されたのは、京都大学の戸部隆吉名誉教授ほか総計4人です。Applicationを提出するに際して、当時の日本のGovernorであられたTokyo Medical Surgical Clinicの藤井功一先生の面接を受けた時のあの緊張感、Convocationでの感激は今も鮮明に蘇ってきます。また、今回、このような機会をいただき、構想を練るために、久し振りに紐解いて見たアルバムに、恩師であるCedars Sinai Medical CenterのProf. Leon Morgensternをはじめ、Prof. Frank Moody (University of Texas)、Prof. J. Raymond Hinshaw (University of Rochester)、Prof. Ronald Tompkins (UCLA) に書いていただいた身に余る推薦状のコピーを見つけ、昔を懐かしく回想することができましたのも思いがけないことでした。

私が、初めて出席させていただ

いたACS会議は、1970年のChicagoで開催された56th Annual Congress of ACSです。我々の提出した演題、“Morgenstern L, Shapiro SJ, Yamakawa T.: Carcinoma of the Gastric stump.”が受理されたからであります、殊に忘れられない、この時の出来事は、この会で、尊敬する故榎 哲夫東北大学名誉教授が、Honorary Fellowに選出されたことでもあります。この榎 教授の受賞は、本当に日本の外科医の一人であることの自信と勇気を私たちに与え下さいました。またACSに対しては国際的権威を感じ、以来、ACSのFellowになることが、私の夢の一つになりました。しかし、その敷居は高く、その後の学会活動で、お知り合いになった前述した諸先輩のご推薦を取り付けることができるようになるまでには、随分時間がかかりました。しかし、その間の出来事も私にとっては、大変、良い

思い出でとっています。

その後、当時、Governorを務められておられた東京大学名誉教授 出月教授 (Honorary Fellow, ACS) のご推薦で、二人の立候補者の中から選ばれ、2001年から6年間、日本支部のGovernorを務め、貴重な経験をさせていただき、この大任を果たすことができましたのも、Governorを務められた前任の藤井功一先生、桜井健司先生ならびに出月康夫先生のご尽力の賜物でありまして、すでに全てレールが敷かれていたからであります。この場を借りて感謝申し上げる次第です。これは、本会会員の皆さまにも、ここで強調しておきたいことでもあります、お陰様で、ACSの日本支部会に寄せる信頼はゆるぎないものであることを、ACSの会議に出席して、幾度となく痛感いたしました。

(4ページにつづく)

Single incision. Single port. Simple choice.

COVIDIEN
positive results for life™

SILS™ Port

販売名：ステップシステム
医療機器承認番号：20900B2Y00979000

製造販売元 **コウイディエン ジャパン株式会社**
〒158-8515 東京都豊田区辰野4-10-2
TEL (03) 5717-1270 FAX (03) 5717-1279 <http://www.covidien.co.jp>

COVIDIEN、COVIDIEN ロゴマーク及び“positive results for life”は Covidien AG の商標です。
TM を付記した商標は Covidien company の商標です。
©2010 Covidien



私のACSに対する思い

ACS日本支部会News Letter 発刊を祝して



(3ページよりつづく)

さて、ACS会議は、最近の経済事情の影響で、展示会場などの規模は縮小され、昔のような華やかさはなくなりました。しかしACSの組織は巨大で、世界中にChapterを持ち、活動は、学術的なことばかりではなく、社会問題など多岐にわたることはご気づきのとおりです。ACSは、定期的にBoard of Governors Surveyを行って、世界の医療事情、教育事情、その他多岐にわたる事項について広く情報収集を行っているのですが、例えば、Credentialing for New Technology 関連の質問に答えた私の日本内視鏡外科学会の技術認定制度の開始を伝える報告なども、いち早く、Board Meetingで報告され、記録に残されています。またACSから発信される新しい知見は、内視鏡下外科手術もそうであったように、直ちに世界を駆け巡ります。これは、ACSが新しいニュースの発信源であるという

ことを示唆すると同時に、ACSは、世界をリードする学術団体であることを如実に示しています。現在、私が関与している世界内視鏡外科学会並びに万国外科学会理事会も、ACS会議に合わせて開催されますが、この事象を見ても、各国の指導的立場にある医師がACSを特別視していることが伺えます。

しかしながらACS会議は、他国の影響には一切踊らされず、一国の独自路線に乗って開催される学会ではありますが、同時に、世界に大きな影響力を持つ学術集会であることを明記しなければなりません。したがって、ACS日本支部会の義務は、ACS会議を側面から協力すること以外にはありません。また日本支部会員の義務は、日本支部会の活動を支持し、自らはACSでの活動を通じ、友達の輪を拡げながら、一方では、ACSの動き、世界の動きを察知し、かつACS会議で得た新しい知見

を、自分の臨床に生かしていくこと、あるいは日本に伝えることにあります。今回、発行されるNews Letterは、まさにそのためにあるのではないかと考えます。

ここに示す言葉は、諸兄がconvocationで誓われたFellowship Pledgeの一節です。“I solemnly pledge myself to cooperate in advancing and

extending the art and science of surgery by my Fellowship in the American College of Surgeons.”我々、FACSの義務は、この一節の言葉に尽きます。

最後にACS Japan Chapter会員諸兄の益々のご活躍とご発展を心より祈念申し上げます。



To Prevent Losses
Producing and Saving Full HD Images and Movies in High Definition Format with KARL STORZ IMAGE1™ HD and KARL STORZ AIDA® compact HD



The Best Viewing Experience



STORZ
KARL STORZ - ENDOSKOPE
THE DIAMOND STAR BRAND

カールストルツ・エンドスコピー・ジャパン株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-42-5 ホア本郷ビル6F
Tel: 03(5802)3966(代) Fax: 03(5802)3988
e-mail: info@karlstorz.co.jp http://www.karlstorz.com

製造販売代理
EM・シー・メディカル株式会社
本社/東京支店 〒180-8355 東京都板橋区直轄町7-5-25 西村ビル11層ビル
Tel: 03(5330)7860(代) Fax: 03(5330)7867
大阪支店 Tel: 06(6271)7855(代) 名古屋支店 Tel: 052(962)7855(代)
九州支店 Tel: 092(478)0833(代) 北日本支店 Tel: 022(215)3390(代)
http://www.emmed.co.jp

Bard メッシュ
Light PERFIX Plug

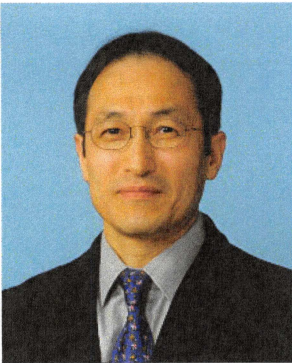
さらに進化を遂げたメッシュプラグ
Light PERFIX Plug
独自の編製法により軽量化かつ
適度なコシを実現

販売名: Bard メッシュ (ライト パーフィックス プラグ)
承認番号: 16000BZY01128000
備置区分: 補綴物/ヘルニア 形状付加
●事前に必ず添付文書を読み使用上の注意等を守って正しく使用して下さい。
Bard, Light Perfix, C.R. Bard社の登録商標です。Davol, デイボールは、DAVOL社の登録商標です。
製品の仕様・形状等は、改良等の理由により予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

製造販売元
株式会社メディコン
〒 社 大阪府高野区平野町5-8-8 06(203)4541(代)
〒 堺区曙7-1-7 072(222)2111(代)

製造販売元
DAVOL INC.
Subsidiary of C.R. Bard, Inc.
100 Crossings Blvd.
Warwick, RI 02886
U.S.A.

Pure



京都大学 消化管外科 教授

坂井 義治

Yoshiharu Sakai, MD, FACS

3年前にACS日本支部事務局の高折先生より入会を勧められ、教室および関係病院の先生とともに入会申請をさせていただきました。書類の不備や御推薦いただいた先生への連絡不行き届きもあり仮承認まで1年近くかかりましたが、2009年10月にシカゴで開催されたAnnual Congressで正式に会員として承認されました。この書面をお借りして御推薦いただきました大阪医科大学谷川教授をはじめ多数の先生に御礼申し上げます。

今回日本からの新入会員は31名でした。Convocation Ceremonyでは、その厳かな雰囲気緊張と興奮を覚えるとともに、北島政樹教授がHonorary Fellowshipを受賞される式典に臨席できたことを光栄に感じました。

ACSについては、その機関誌がJournal of American College of

Surgeons (JGSO)であることは知っていましたが、Annual Congressに参加したのは2008年が初めてです。Educational videoに応募したところ運良く採択され、参加費が無料になったことは驚きでした。Annual Congressは毎年10月に開催されますが演題は3月1日、videoは音声を含めて完成したものを提出しなければなりません。国内のほとんどの学会では、ビデオが抄録のみの審査で採択されていますが、しばしば期待していた内容とは異なるビデオに遭遇することがあります。応募する側、採択する側ともに大変な労力が必要になりますが、ACSのvideo採択法は参考になるかもしれません。2009年はinternational video sessionに採択され、しかもMost Outstanding Videoに選ばれるという栄誉を頂きました。このようなselectionがある

とは知らず早々に会場を後にしていたため、表彰の場に居なかったのは残念ですが。

2009 Annual Congressでは以上のような喜びの上に、旧知にも再会するという3重の喜びがありました。私は1989年から1991年までカナダのWestern Ontario大学に留学していましたが、その時clinical fellowとして一緒に修練を受けたDr. McAlisterが同大学の教授に就任し、今回ACS新会員としてConvocation Ceremonyに出席していました。お互いの頭髪と体型は変貌？していますが(写真)広い会場ですぐに認識でき、20年前を懐かしく思い出した次第です。

Annual Congressに2回出席しただけですが、そのプログラムの中にpostgraduate training courseが多数設けられ、講義形式ばかりでなくhand-onなどの実技もふくまれて

いることは印象的でした。また会員になってこの数ヶ月間頻りに送信されてくるACS Newsを通して、オバマ大統領の医療保健改革に対するACSのコメントやロビー活動の状況、さらにはハイチ地震に対するACSの援助対応などを垣間見る度に、ACSの社会的率先力・影響力の大きさを感じます。会員数が増加するACS日本支部が今後どのようにACSの活動に関与していくべきなのか、先輩諸氏の御指導・御鞭撻を頂ければ幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。



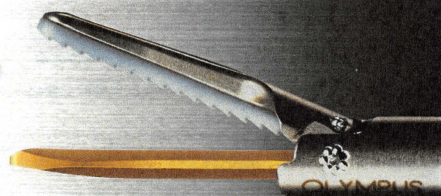
■ 坂井教授とMcAlister教授
(2009年Clinical Congressにて)

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

SonoSurg X

— Xが拓く未知なる領域 —



オリンパスメディカル システムズ株式会社
〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モリス <http://www.olympus.co.jp>

販売名 超音波手術システム SonoSurg 医療機器承認番号 21400EZZ00559000号



ACS Resident Membershipについて

2008年3月にACSの会員制度が変更され、それまでアメリカ及びカナダのレジデントのみが対象とされていたACS Resident Membershipにアメリカ及びカナダ以外のレジデントの応募が認められるようになった。応募の手続きは比較的容易であり、ACS Resident Membershipの年会費20 US\$を支払うだけで、この年会費を遥かに超える様々なbenefitを受けることができる。今回はACS Resident Membershipのbenefit及び応募方法を紹介したい。

ACS Resident Membershipのbenefit

ACS Resident Membershipには様々なbenefitがあるが、日本在住のレジデントに有益と思われる主なものを紹介する。医療過誤保険や職場斡旋など対象が米国在住のレジデントであるものも多数ある。詳細についてはACS websiteを参照されたい。

ACS Clinical Congressの参加費が無料になる

日本在住のレジデントの場合、米国にて年に一度行われるACS Clinical Congressの参加費は610 US\$ (2009年の場合)である。日本在住の医師の場合は研修医でも研修終了後の医師でも同じ金額である。しかし、勤務先の病院から研修医であることの証明書(特別な書式はない。病院長及び臨床研修プログラム長の署名が必要)を発行してもらい、参加申し込みの際にACSに郵送もしくはFAXすることによって、研修医の参加費はResident Non-member (International with verification letter)の扱いとなり45 US\$まで減額される。参加費は毎年固定ではないようで、筆者がまだACS Resident Memberでなかった2007年にACS Clinical Congress参加した際にはResident Non-memberの参加費は225 US\$であった。ACS Resident Memberであればこの参加費が無料となる。

ACS発行の学会誌及び情報誌が無料で送付される

ACSが発行するJournal of American College of Surgeons : JACS, 及びBulletin(情報誌)が毎月無料で送付される。これは日本からであれば年間購読料が383 US\$するものである。

ACS発行の各種書籍が割引価格で購入できる

ACSからは多くの書籍が発行されており、ACS resident memberはこれらを割引価格で購入できる。中でも特筆すべきは以下の2つである。

■ Selected Readings in General Surgery (SRGS)

新旧数多くの論文の中から必読であるものをACSのeditorが厳選し、分野ごとに1冊の冊子となって定期的に送付される。数年のサイクルで一般外科の各分野をローテーションする。

■ Surgical Education and Self-Assessment Program (SESAP)

一般外科の分野別一問一答形式の問題集。解説が秀逸であり、非常に勉強になる。

Local chapterのイベントへの招待

ACSには地域ごとに"chapter"と呼ばれる"支部"が存在する。ACS Resident MemberであればJapan Chapterが主催する様々なイベントへの招待があり、会員同士の交友を広げることができる。



医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
(北海道札幌市)
外科後期研修医

橋本 陽平

Yohey Hashimoto, MD

Profile

2005年、横浜市立大学医学部卒業。医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院にて初期臨床研修終了後、現在同院にて外科後期臨床研修を行っている。日本外科学会専門医取得後、米国にて外科レジデンシーを行うためUSMLE合格に向けて準備中。

E-mail: yohey@gol.com

ACS Resident Membershipの応募方法

下記のURLより申請書をダウンロードし、臨床研修委員長(もしくは院長)のサインをもらってACSへ提出する。手続きが終了するとE-mailで会員番号が通知され、各種web serviceが利用可能となる他、後日ACSの会員証が郵送される。

申請書のダウンロード先 <http://www.facs.org/memberservices/residentmembapp.pdf>

アメリカでの外科residencyは5年間であるので、日本では初期臨床研修開始時から後期臨床研修終了時までにはresident membershipの応募資格があると考えてよいだろう。年会費は20 US\$であり毎年更新の必要がある。更新するためには更新時期に送付される文書に必要事項を記入し、次年度もレジデントの立場であることを証明することが必要である。

ACSのwebsite内の"Find an ACS Member"において日本在住の会員を検索することができるが、ほとんどがFellowであり、Resident会員は数名と非常に少ない。これはACS会員であることのbenefitやその応募方法が日本国内で認知されていないためと思われる。20 US\$という小額で多くのbenefitを受けることができるため、今後多くの日本在住レジデントがACS Resident Memberとなることを期待したい。

詳細はACS websiteにて <http://www.facs.org/memberservices/resident.html>



事務局より



ニュースレター発刊について

このたび、谷川会長のご使命により、American College of Surgeons (ACS) 日本支部ニュースレターを発刊させていただく運びとなりました。まずは、発刊にあたっていろいろとご指導いただきました谷川允彦教授、お忙しいなかご

寄稿いただきましたDr. Thomas Russell、山川達郎教授、北島政樹教授、坂井義治教授、橋本陽平先生に深謝申し上げます。おかげさまで、記念すべき第一号として非常に充実した内容になったものと存じます。このニュースレターは、

ACS日本支部会員の情報交換の場として活用していただくことを目的としておりますので、第2号以降にも、奮って会員の先生方からの寄稿をお願いいたします。今後の予定は皆様のご意見を伺ったうえで決めてまいります。日本支

部総会の前に1回、ACS Clinical Congressの前に1回、年間計2回発行できればと思っております。事務局からの連絡事項も、適宜掲載させていただきたく存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2009年度新入会員について

谷川会長のお声かけにより、皆様のご協力を得て、2009年度は31名という例年の3倍以上の入会がありました。Chicagoで開催されたACS総会でも、日本からの入会者数が画期的に増加したことが話題になり、Executive DirectorのDr. Russellをはじめ、多くのACS本部役員から谷川会長に感謝の意が述べられたとのこと。また、ACS International Relation Committeeでは、委員会の冒頭で委員長Dr. Hugo V. Villarから日本支部の入会者増加の努力に賞賛のお言葉を賜りました。ACS本部において発言力をアップするには、日本支部会員数を増やすことが最も効果的であることは間違いないようです。一方で、会員数だけでなく、活動の質を高めていく必

要があります。山川先生が述べられている、「I solemnly pledge myself to cooperate in advancing and extending the art and science of surgery by my Fellowship in the American College of Surgeons.」というFACSの原点に戻り、ACS日本支部のBylawsに謳われている目的に沿って、われわれの活動を考える必要があると存じます。このニュースレターが会員の皆様の活動をよりグレードアップする一助になれば幸甚です。また、重鎮の先生方からは、会員数の増加により「変な輩」が入会してしまう可能性についてのご指摘をいただいております。このことにつきましては、Fellowshipの入会審査にあたってACS本部からReference Infor

BYLAWS OF THE JAPAN CHAPTER OF THE AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS

ARTICLE I Name and Purpose

Section 1. Name. The association shall be known as the Japan Chapter of the American College of Surgeons hereinafter referred to as the "Chapter".

Section 2. Purpose. The objectives of the Chapter shall be:

1. To be responsible for and endeavor to attain within Japan the objectives of the American College of Surgeons. These include elevating the standards of surgery, establishing a standard of competency and character for practitioners of surgery, providing a method of granting membership in the organization, educating the public and the profession to understand that the practice of surgery calls for special training and that the surgeon elected to Fellowship in this College has had such training and is properly qualified to practice surgery.
2. To provide for close fellowship of its members in uniting their efforts to improve the quality of care for the surgical patient.
3. To promote the aims, interests, ideals and programs of the American College of Surgeons in Japan.
4. To offer the assistance of their Fellows to professional and civic groups concerned with the health of the community.
5. To provide a medium through which surgical experiences may be presented and to provide a meeting ground for all surgical specialties.
6. To serve as a means of communication between the members of the Chapter and the College.
7. To elevate the standards of practice, training and education in surgery in Japan.
8. To provide a means through which the Fellows may communicate with other professional and civic groups concerned with the improved delivery of health care.

mation Requestが会員の皆様に参加しますので、この際しっかりと吟味のうえ回答をしていただくようお願いする次第です。事務局

といたしましても、FACSに相応しい方を推薦するように引き続き努力してまいります。

ACS第95回Clinical Congressに参加して

2009年のClinical Congressは10月11日から15日まで、シカゴのMcCormick Placeで開催されました。大会初日の日曜日には、恒例のConvocationがとり行なわれ、役員と新入会員 (Initiates) が伝統

のガウンに身をつつんで参加いたしました。今回は日本から31名もの入会がありましたので、多くのInitiateの先生方が、厳かななかにも緊張しながらConvocationに列席されたものと思います。また、

Convocationのフィナーレでは、北島政樹先生にHonorary Fellowshipが授賞されました。私自身は、引き続き行なわれるReceptionの準備のため残念ながらConvocationには出席できませんし

が、Receptionで北島先生の受賞をお祝いさせていただき、日本支部としても大変名誉なことだと感慨無量でありました。学術会議は、いつものように最先端の基礎研究

**New Fellows**

2009年度 新入会員名簿

Tadashi Akiba, MD, FACS

Toru Beppu, MD, FACS

Yasunori Emi, MD, FACS

Kazuya Endo, MD, FACS

Takabisa Fujikawa, MD, FACS

Fumihiko Fujita, MD, FACS

Masabiko Ikebe, MD, FACS

Atsushi Itami, MD, FACS

Hiroyuki Itoh, MD, FACS

Akiyoshi Kanazawa, MD, FACS

Kazunori Kasama, MD, FACS

Masami Kimura, MD, FACS

Yasubiro Koderu, MD, FACS

Mitsuo Miyazawa, MD, FACS

Hideo Nagata, MD, FACS

Takeshi Naitoh, MD, FACS

Hiroshi Okabe, MD, FACS

Junji Okuda, MD, FACS

Noriaki Sadanaga, MD, FACS

Yoshiharu Sakai, MD, FACS

Shinya Shimada, MD, FACS

Yuji Soejima, MD, FACS

Hideki Suzuki, MD, FACS

Hiroshi Takamori, MD, FACS

Akinobu Takekomi, MD, FACS

Ken Taniguchi, MD, FACS

Morimasa Tomikawa, MD, FACS

Masayuki Watanabe, MD, FACS

Tokujiro Yano, MD, FACS

Fumiaki Yano, MD, FACS

Masashi Yoshida, MD, FACS

(7ページよりつづく)

を取り上げたSurgical Forumから、臨床医にとって極めて有用なPostgraduate Courseまで、盛り沢山な内容でした。International Video Sessionでは、各国から集まった会場参加者の投票により、直腸癌に対する腹腔鏡下手術における解剖学的知見をlaparoscopically-enhanced surgical anatomyの観点から明快に示された坂井義治

教授のビデオがMost Outstanding Videoに選ばれ、日本の内視鏡外科技術のレベルの高さを世界にアピールことができたのではないかと思います。火曜日早朝には、兼松隆之教授が委員を勤められているInternational Relation Committeeに、Japan Chapter Secretaryとして出席させていただきました。2009年度のJapan Exchange

Fellowとして、佐伯浩司先生(九州大学)と、Dr. Lorenzo Ferriの紹介が行なわれました。

さて、今回のClinical Congressにおける日本からの事前参加登録は57名で、Initiatesの先生方も多数参加されました。今後は、さらに若い世代の先生方にClinical Congressで積極的に発表を行なってもらい、将来のFACSを目指してもら

うことが重要だと思います。そのひとつの方策として、ACS Resident Membershipの活用があります。今年度のClinical CongressにResident Memberとして参加した橋本陽平先生に、応募方法などについて解説していただいたので、ご参照いただければ幸いです。

ACS日本支部2010年度年次総会について

今年度のACS日本支部年次総会は、第110回日本外科学会定期学術集会期間中の2010年4月9日(金曜日)午後6時30分から名古屋国際会議場会議室231号で開催予定です。ACS日本支部会員でもあられる中尾昭公日本外科学会会頭には大変お世話になりますが、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。なお、以前はACS日本支部総会は学会最終日の早朝に行なっていたのですが、他の国際学会支部会との重複によりご迷惑をおかけすることが多く、また各種学会の委員会が多数早朝に開催されるように

なったため、昨年からは夕方開催に変更しております。

2007年度の総会においてGovernorを勤められた山川先生からBylaws改訂の必要性が指摘され、2008年度年次総会の議事を経て、谷川会長の指示によりBylaws改訂委員会が発足しました。2008年7月には特別総会を開催し、Bylaws改訂についての議論を行なっていました。このような経緯によりBylaws改訂の方向性についてはある程度のコンセンサスが得られつつありますが、実際にBylawsを改訂変更するには、現行Bylawsの

規定により、年次総会参加者の3分の2以上の票決が必要で、かつ年次総会における議決定数は支部会員数の過半数と定められています。しかしながら、これまで支部会員の入退会は厳密には定められていなかったため、支部会員数そのものが不明でした。2008年7月の特別総会において、会員の条件として支部会費を完納していること、そして委任状による総会出席を認めることが合意されました。また、Bylawsに従って、年次総会に連続3年以上総会に出席しないものは退会とするべきであるというご提

案をいただきました。一方で、慣例により65才以上の会員からは会費徴収を行なっていないため、消息が不明な方もおられます。よって、65才以上の会員数の確定は困難ですが、この問題についてはまだ結論が出ておりません。今回の2010年度年次総会においては、このような問題も含めて、Bylaws改訂に必要な投票に関する重要事項についての議事を予定しておりますので、会員の皆様には是非ともご出席を賜りたく存じます。

ACS日本支部事務局
京都大学大学院 医学研究科 外科

高折 恭一

Kyoichi Takaori, MD, FACS

Secretary of the Japan Chapter, American College of Surgeons